

CONV/RGENCE

コンバージェンス

#4

A LEAGUE OF LEGENDS STORY



COREY
LEWIS
★
XXII

完璧な人生

RIOT FORGE

O'BRYAN • SMITH • WOLFORD • BRIGHTBILL

ピルトーヴァー & ゾウン

階層図

ピルトーヴァーとゾウン——この2つの都市は、世界の技術発展を担う中心地である。

地上にあるピルトーヴァーは時計のような正確さで動く、豊かで清潔な夢の都市だ。

その地下にある姉妹都市のゾウンは雑然とした無法地帯であり、住民はそれぞれの夢を自由に追っている。豊かな地上都市の陰で生きるゾウン人は、純粋な意志の力と発明の能力をもって何とか日々の暮らしを送っている。地下都市を覆う化学スモッグの薄闇の中、彼らはより良い暮らしを夢に見て、それを実現しようと奮闘しているのだ。

—ジェイスの作業場

ピルトーヴァー
↑↑↑

プロムナード階層

中層階

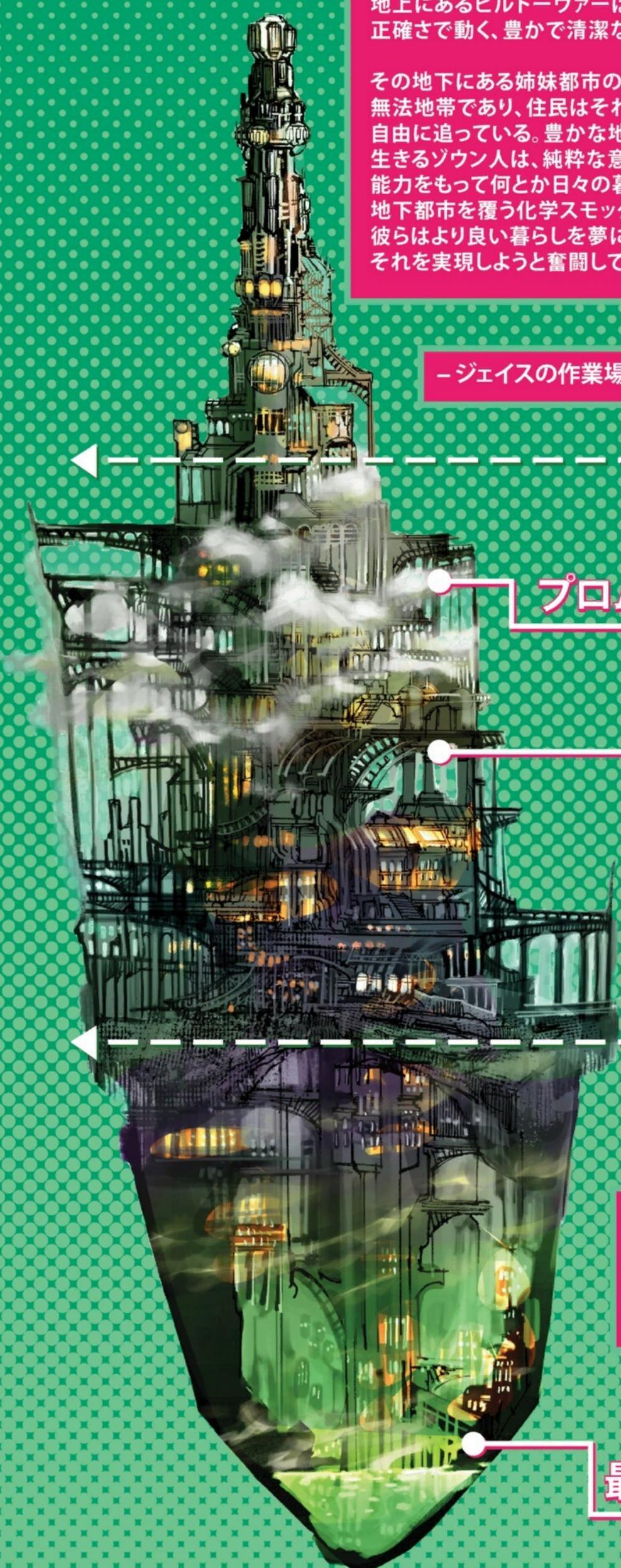
—祝勝祭会場
—ヴァン・クレグ工業

ゾウン上層
↑↑↑

—エコーのアパート
「ゾウンの迷子たち」
秘密基地
—ビクターの旧研究所

最下層

アート制作:
Eric Canete





エコーは**ゾウン**に住む
ティーンエイジャーの
発明家だ。この都市では
科学技術を使いこなすこと
こそが、明るい将来へと続く
最善の道だとされている。
彼の最高傑作である
「ゼロ・ドライブ」は、
時間を巻き戻すことができる。
つまり、エコーは数秒前の過去を
やり直すことができるのだ。
エコーはこの装置を使って、
人生のあらゆる出来事を
やり直してきた——ちょっとした
ミスから、人生を左右するほど
大きな過ち、その中間のものに
至るまで。

しかし、時間を改変する
ということは、エコーやその家族、
友人たち、そして世界にすら
深刻な影響を及ぼす可能性が
あるのだ…

『**コンバージェンス**』の前日譚に
あたる本作において、エコーは
タイムトラベルによって得られる
チャンスを諦め、やり直しのきかない
人生を送ることを思い描く。
だが時間に手を出さず、その流れに
身を任せるというのは、想像以上に
難しいことだった…

CONV/RGENCE

コンバージェンス

A LEAGUE OF LEGENDS STORY™

完璧な人生

John O'Bryan

WRITER

Dietrich O. Smith

LAYOUTS

Dietrich O. Smith (1~4話)

Crizam Zamora (5話)

PENCILS

Dietrich O. Smith (1話)

William Wolford (2話、4話)

Crizam Zamora (3話、5話)

INKS

Kyle Brightbill

COLORS

Studio RAM

LETTERING (EU LANGUAGES)

Comicraft's Tyler Smith

LETTERING (NON-EU LANGUAGES)

Corey Lewis

COVER ARTIST

Sabrina Futch

Gate Gary (1話~3話)

EDITORS

Molly Mahan

COMICS NARRATIVE LEAD

Mary Gumport

SPECIAL THANKS



ヴァンクレッグ工業
中層階

つまり、手術を受けるなって言うのか？だが昨日までは…

お前の考えていることは時々よく分らん

そうだね、父さん。でも…身体改造を受けた友達が、昨日の夜からすごく変なんだ

それで？お前の友達は前から変わってるだろう

そうなんだけど——変わったことをしなくなったからおかしいんだ。

いつもみたいにバカなことを全然しないんだ。身体改造のせいで、一切無駄なことをしなくなったっていうか…

ふむ…確かに妙だが、そのお友達は体が改造に順応している最中なのだろう。

そういった副作用は二日もすればなくなるはずさ

少しの副作用くらい大丈夫さ

そうかもしれないけど…最初に断った父さんの判断が正しかったのかもしれない。今からでも——



もう一回、
あの身体改造を
見てみよう…

ちょっと覗くだけだ。
ちゃんと信用できるか、
確かめるだけ

う〜ん。頑丈に
施錠されてる。
壊すのは無理そうだ

でも、あの清掃
ゴーレムなら事故を
起こしてくれそうだな

おっと

悪い
ゴーレムだ

PSHHH
KRINK

薄暗い廊下。
立ち入り禁止区域。
こっちで間違いない



さて、オレが怪しい
秘密の部屋を
作るとしたら、
どこにするかな？



ビンゴ



うわあ...



これはヴァン・クレッグの
神経系アダプター...



…でも、
これ以外のものは
彼の作品じゃない
みたいだな

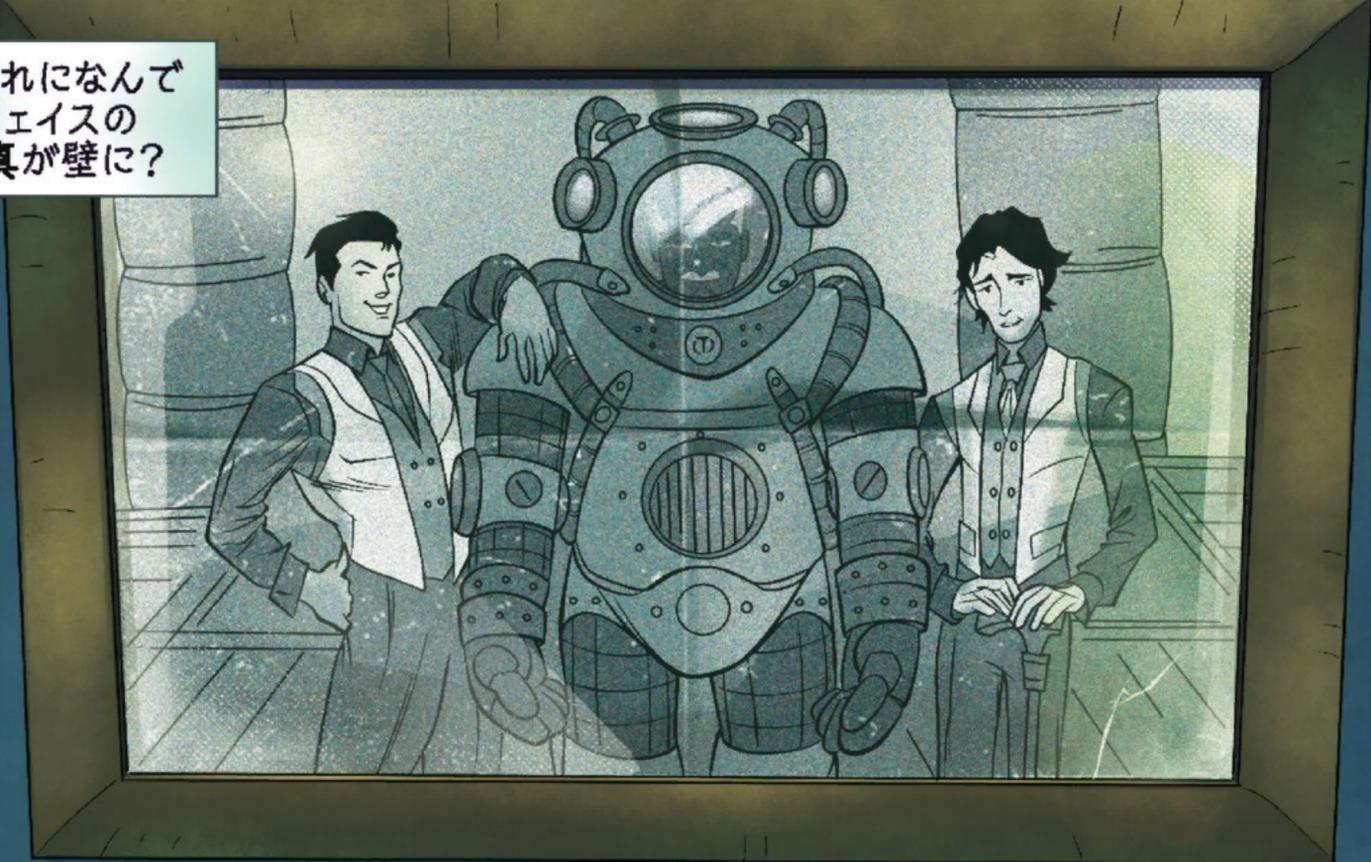
なら一体
誰のだ？



これは…ジェイスの
ハンマーだ。どうして
ジェイスのシンボルが
こんなところに？



!



…それになんで
ジェイスの
写真が壁に？





はい、
ヴァン・クレグさん。
問題なく機能
しています



ピクター…
一体何を
したんだ？

必要なことを
しただけだ



私の信頼を
裏切ったな。
これは…
これは——

これは進化だ、
ヴァン・クレグ。
完全体への
道のりを
進むなかで、
人類が
避けられない
順応なのだ

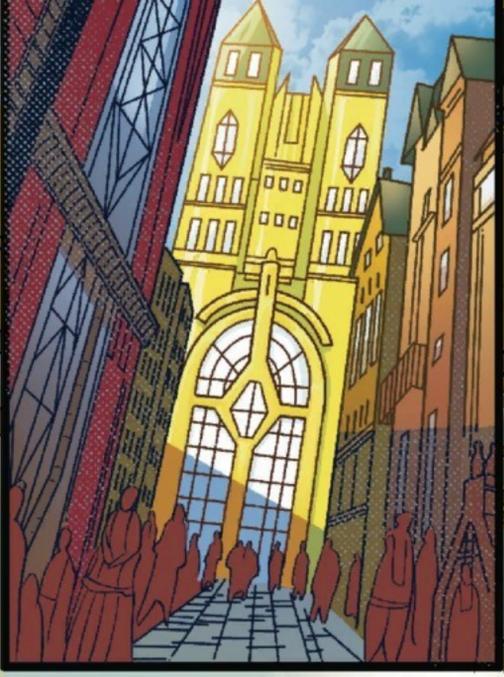


それは
昔の仮面…
お前は変わったと
思っ
ていたのだが。
皆に警告
しなければ。
私はケミ長者たちの
ところへ行く。
彼らが許す
はずがない！



感情が
お前を弱く
するのだ、我が
パートナーよ。
そして
弱さは
進化に
必要ない

トゥモローエンタープライズ
ゾウンの遥か上、ピルトーヴァー



なあ、
フェイスに
話があるん
だけど、
会えるか？



ああ、面会か。
約束は
してるのか？

YAWN



いや、
してない。
でもマゾで
重要なこと
なんだ

はいはい



…こんな
合金じゃ熱に
耐えられない！
この前も
言ったじゃ——

ちょっと
待った——
来客だ



失礼——
君は誰だ？どうやって
入って来た？



ジェイスさん、話があるんだ。オレの——

すみません
止めたのですが！
面会予約するのを
拒んだんです！



大丈夫だ、
プリン。

ファンの
ためなら
時間を
作るよ



さて、坊や。ご用件は？
俺の本は読んだか？
ほら、一冊サイン
してあげよう

そうじゃない。
父さんのことで
来たんだ

CLICK



父さんの
目が悪く
なって、
それで——

つまり…
お父さんが
サインを
欲しがってる
のか？いいぞ。
名前だけ
教えて
くれれば——





本を置け。
そんでオレの
話を聞け

穏やか
じゃないな



父さんは、
もうすぐこいつを
脳みそに
突っ込まれるんだ。
オレは何か
おかしい
と思ってる…

こいつは
あんたに
関係がある
はずだ!



いいか、この
恩知らずめ—
俺は多忙な
合間を縫って
君のために
時間を作ったんだ。
なのに、根拠もない
言いがかりを
つける気か?

俺は
自分の製品を
下では売って
いない…君の町が
どこかは
知らないがね



ウソだね。こっちは
あんたのケミテック供給
ラインを作るために失明
までしてるんだ。

あんた、
オレたちを
馬鹿にしてんだろ?
好き勝手に
押し付けて、
それで許されると
思ってるやがる



俺をゆする
つもりか?
有名人から金を
巻き上げようって
魂胆だな?

いいさ、
やってみろ



KRAAK

あの装置の正体を教えろ!

一体何の話だ!

WHOOOSH

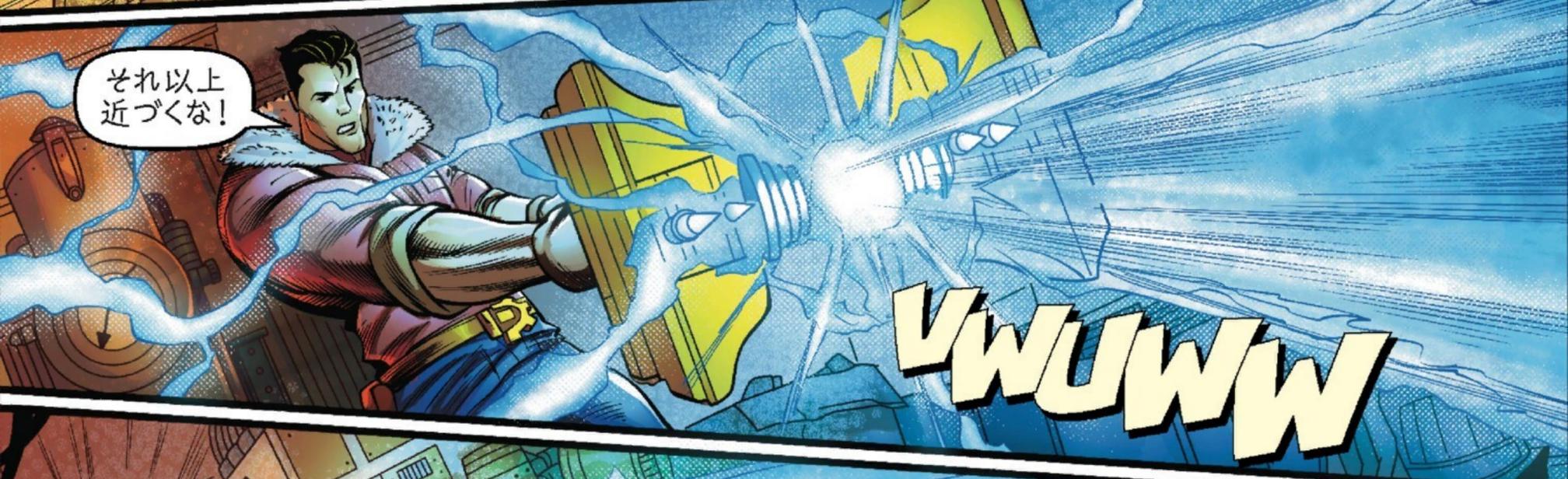


うう...

CRASH



なら、なんであなたのシンボルと写真がああ
の研究所にある?



それ以上近づくな!

VWUWW



KRACK



あの、大丈夫
ですか？

問題ない、
プリン。
ちょっと――



オラァ!

SMACK



うっ…
これは？…
ピクターの…



何だって？

この神経系
アダプターは…
ピクターのものだ。
あいつの装置は
すぐに分かる

どうやら改良
したみたいだな



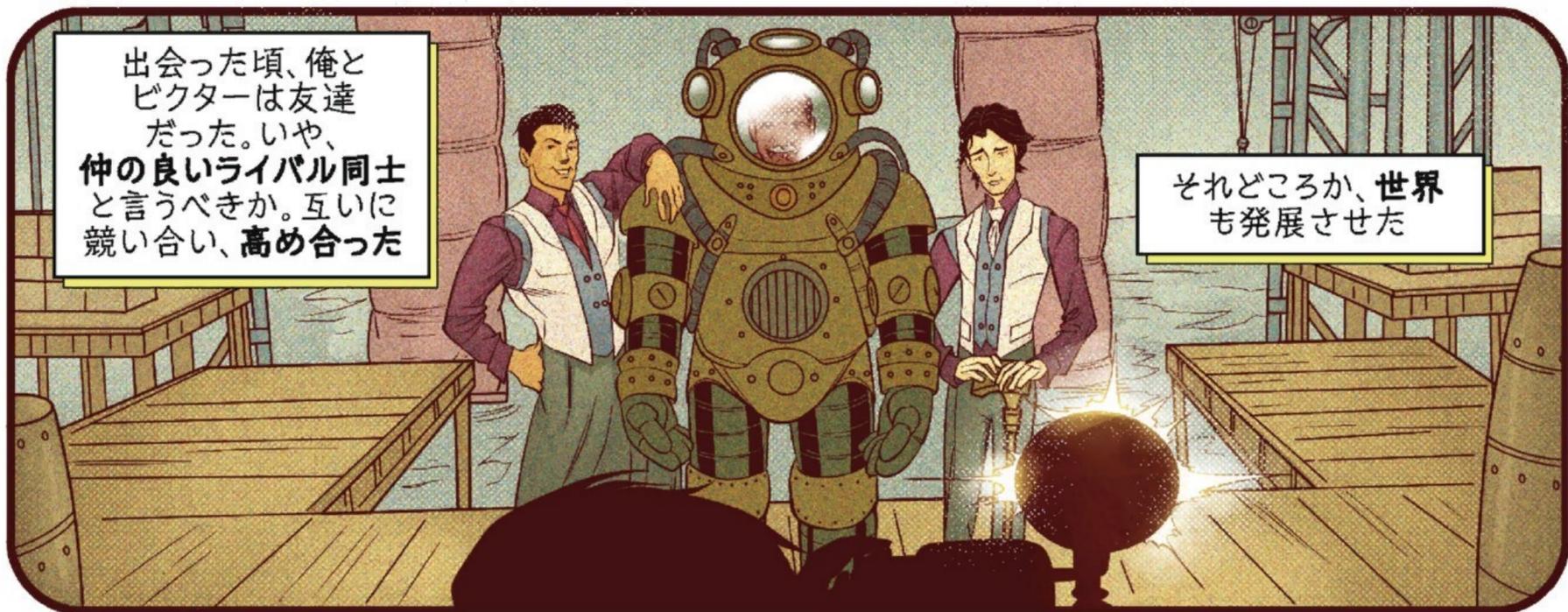
そんなはずないだろ。
だってあんたは彼を始末
した。ピクターはもう
いない…だろ？

「いない」
というのが
どういう意味か
にもよるが…



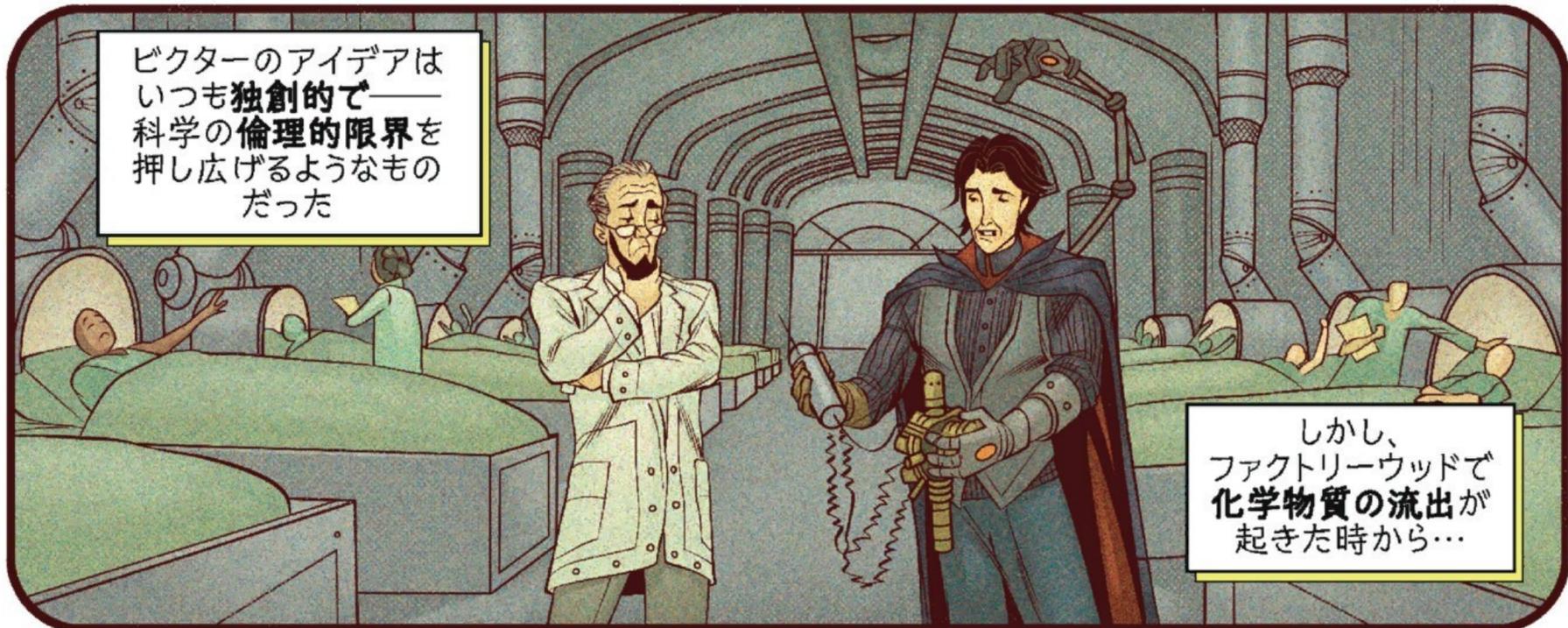
まあ
座ってくれ

…壊れて
いないイスが
あればの話
だが



出会った頃、俺と
ビクターは友達
だった。いや、
仲の良いライバル同士
と言うべきか。互いに
競い合い、高め合った

それどころか、世界
も発展させた



ビクターのアイデアは
いつも**独創的で**—
科学の**倫理的限界**を
押し広げるようなもの
だった

しかし、
ファクトリーウッドで
化学物質の流出が
起きた時から...



...**完全におかしく**
なってしまった

患者たちを...人間
ではない何かに
してしまったんだ。
自らの意志を持たない
ロボットのように



俺は怒りに燃えたよ。
あいつの研究を**制御**
できないのなら、**止める**
しかないと思った

だが、あいつは患者を
利用した。彼らを
俺に差し向け…

殺させようと
したんだ

だから俺は
成すべきことを
成した…

俺は施設を、そこに
あるすべてを破壊した

**K
R
A
A
A
N
N
G**





悪いな、少年。
ゾウンには
関わらない。
これ
以上はな



「ゾウンには
関わらない」だと？
やましいことを
全部
ゾウンに隠してる
からだろ——

ピクターと
同じだ…ゾウンに
ケミテック工場
を買って…労働者
たちを病気に
させた…



その通りだ。
“未来への希望”
であるジェイスは、
何かを直すことよりも
作ることのほうが
得意なんだ



だから自分の
尻拭いをしようとも
しないってのか？

あんたは
ヒーロー
なんかじゃない。
詐欺師だ。

あんた…
残りのメダルも
全部壊した
ほうが良いぜ



SLAM

あのガキ、
何様のつもりだ？
自分の尻拭いは
するさ



プリン？

はい、
ジェイス様？

清掃ゴーレムを
よこして
くれるか？

再び中層階





君のお父さんは完璧に回復しているよ



すべて完璧に機能しています

すべて完璧に機能しています

すべて完璧に機能しています

すべて完璧に機能しています



ハッ



やあ、
息子よ。
私は今、
完璧に動作
している



お前が
ハッキリと
見える



父さん…
父さん、
やめて!

BAP



父さん、これは
ピクターの仕業だ。
あいつが…父さんの
思考を支配してるんだよ。
ここから逃げて
助けを探さなきゃ

「助け」
だと?



彼は完璧と
なったのだ。助けを
求める必要が
どこにある?
次は君の
番だ、少年よ。
父親と共に
一つの意志に
加わるのだ



続く...